

## 帯広市立小中学校適正規模・適正配置市民検討委員会委員名簿（名寄せ順・敬称略）

氏名	所属等
池下 清一	帯広市町内会連合会（団体推薦）
大場 渉	帯広市校長会（団体推薦）
大宮 眞弓	帯広市PTA連合会（団体推薦）
久保 竹雄	帯広市町内会連合会（団体推薦）
黒地 優香	一般公募
合田 倫佳	学識経験者
笹木 卓三	帯広市校長会（団体推薦）
佐藤みゆき	幼保小中連携推進委員会（団体推薦）
藤原 敦美	帯広市教育支援委員会（団体推薦）
長澤 秀行	学識経験者
樋渡 康	学識経験者
松本 圭司	一般公募

## 事務局名簿

所属職	氏名
学校教育部 部長	嶋崎 隆則
学校教育部 学校適正配置担当部長	広瀬 容孝
学校教育部 学校指導担当部長	橋場 仁
学校教育部 企画調整監	葛西 克也
学校教育部 学校指導担当企画監	村松 正仁
学校教育部 企画総務課 課長	福原 慎太郎
学校教育部 企画総務課 施設担当課長補佐	篠原 祥一
学校教育部 企画総務課 総務係長	野崎 実
学校教育部 学校教育課 課長	村木 章純
学校教育部 教職員担当課長	加藤 一心
学校教育部 学校教育課 課長補佐	村田 義博

窓

傍聴席・記者席

企画総務課

企画総務課  
学校教育課

葛西調整監  
広瀬適配部長  
八鍬教育長  
嶋崎部長  
橋場指導部長  
村松企画監

合田委員 藤原委員 長澤委員 樋渡委員 松本委員

委員長

池下委員 大宮委員 久保委員 黒地委員

入口

入口

## 帯広市立小中学校適正規模・適正配置市民検討委員会設置要綱

## (設置)

第1条 少子化に対応した子どもたちの教育環境の充実を図るため、帯広市立小中学校の適正規模及び適正配置に取り組む基本的な方針の策定に向けて、帯広市立小中学校適正規模・適正配置市民検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

## (所掌事項)

第2条 委員会は、市立小中学校の適正規模及び適正配置について、今後の小中学校のあり方など幅広い視点から検討を行い、検討内容を教育長に報告する。

## (組織)

第3条 委員会は、委員12人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから教育長が依頼する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 学校関係団体等から推薦を受けた者
- (3) 公募による者

## (任期)

第4条 委員の任期は、依頼の日から第2条に規定する所掌事項に関する報告を行った日までとする。

## (委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選によって定める。

- 2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指定した委員が委員長の職務を代理する。

## (会議)

第6条 委員会の会議は（以下「会議」という。）は、委員長が招集する。

- 2 会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

## (委員への謝礼)

第7条 委員については、謝礼を支払うものとする。

- 2 前項の謝礼の金額は、会議開催1回につき8,500円とする。

## (庶務)

第8条 委員会の庶務は、教育委員会学校教育部企画総務課において処理する。

## (補則)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が委員会に諮り定める。

## 附 則

## (施行期日)

- 1 この要綱は、平成28年4月1日から施行する。

## (経過措置)

- 2 この要綱の施行後最初に開かれる会議は、第6条第1項の規定にかかわらず、教育長が招集する。

## 適正規模・適正配置のこれまでの取組み

平成 18 年 9 月	帯広市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針並びに適正配置計画を策定
平成 18 年 12 月	豊成小学校適正配置実施計画決定
平成 19 年 9 月	東地区中学校適正配置実施計画決定
平成 23 年 2 月	適正配置計画の見直し。基本方針は維持、計画期間内の対象校や実施時期を見直し整理し、小規模校の多くは次期計画において検討することとした。
平成 23 年 4 月	帯広第三中学校と帯広第六中学校を統合し、翔陽中学校を開校
平成 24 年 4 月	豊成小学校を移転開校
平成 26 年 11 月	西帯広地区中学校適正配置実施計画（原案）の地域説明会開催（～27 年 2 月）
平成 27 年 9 月	「帯広市立小中学校の適正配置の取組みについて」建設文教委員会に報告 今後進める適正配置方針や計画づくりの中で、西帯広地区についても改めて検討していくこととした。

## 帯広市立小中学校適正規模・適正配置市民検討委員会 会議計画（案）

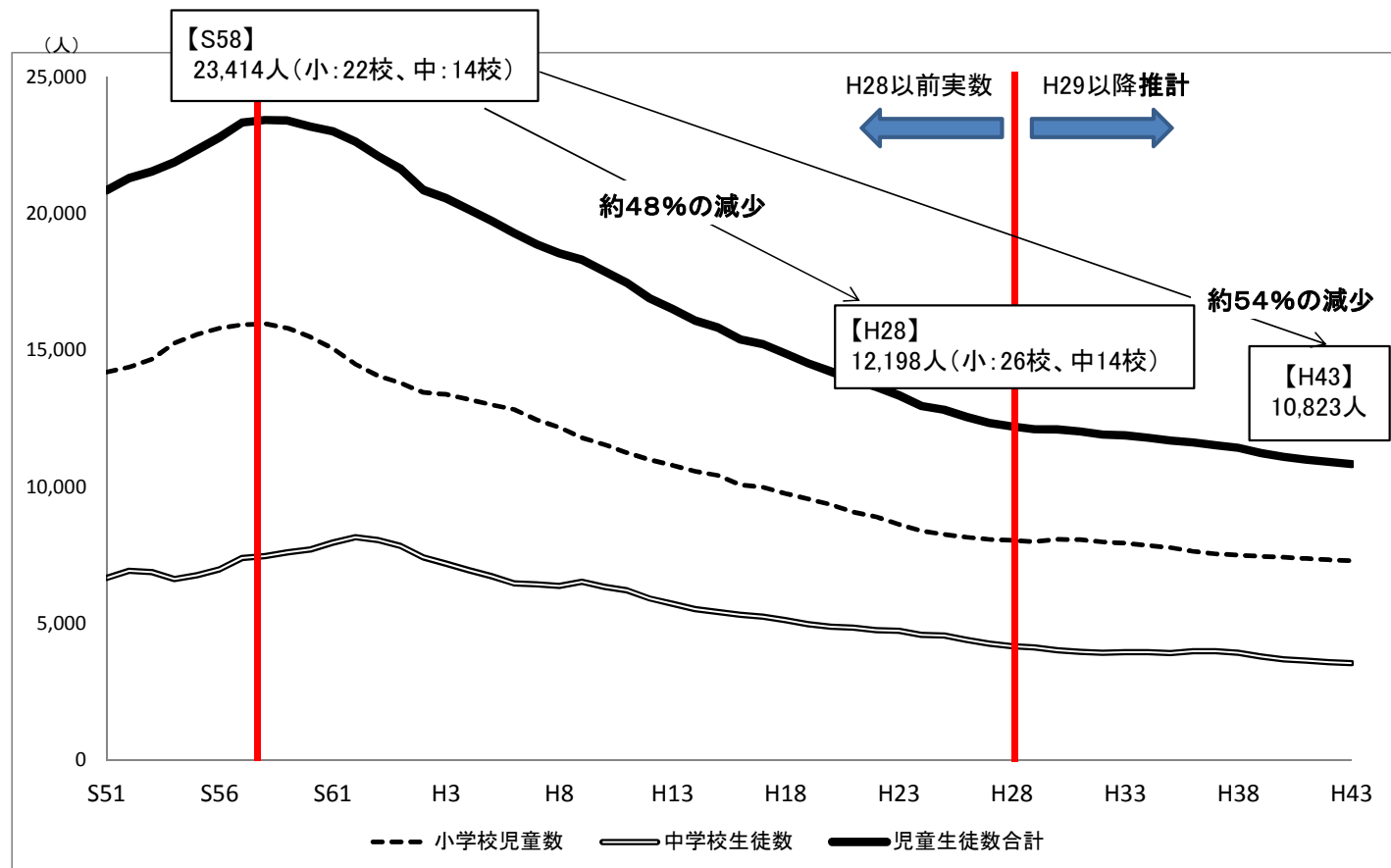
	日 程	検 討 事 項
第 1 回	5/25（水） 19:00～ 本庁舎 10F6	概略説明中心に質疑 本委員会の概要（目的、スケジュール、進め方等） 市内小中学校の教育環境（児童生徒数と将来推計、学校施設の状況、学校教育の推進状況など）、教育改革 公共施設マネジメント計画等の動きなど
第 2 回	6/6（月） 19:00～ 本庁舎 10F2	適正規模・適正配置について 小規模化による課題や児童生徒数増への対応策 少子化が進む中での学校規模適正化の考え方 適正配置の検討を進める上での配慮事項など
第 3 回	6/28（火） 10:00～15:00 市役所集合	市内小中学校の視察 農村地区の小規模校、統合した学校等の様子など実地調査を行い、検討の参考とするもの。（清川小・中、大空小、翔陽中を予定） 先進地の取組み概要説明（旭川市等の小中一貫、適正規模・適正配置）
第 4 回	7/22（金） 19:00～ 本庁舎 10F2	児童生徒・保護者への意識調査結果の概要説明 学校配置の将来像について 通学区域（校区）の課題等 エリア・ファミリーによる小中連携 適正配置に向けた取組みのあり方など
第 5 回	8/2（火） 19:00～ 本庁舎 10F5A	今後の小中学校のあり方について 小中一貫教育、特別支援教育、地域と連携協働 計画のすすめ方 地域との協議など
第 6 回	8/23（火） 19:00～ 本庁舎 10F6	検討の総括（第 5 回目までのまとめ）と報告内容の検討
第 7 回	9/7（水） 19:00～ 本庁舎 10F5B	検討報告書（案）について

※検討事項は、現段階の想定であり、今後変更もあり得ます。

## 児童生徒数の推移と将来推計

### 1 児童生徒数の推移及び将来推計

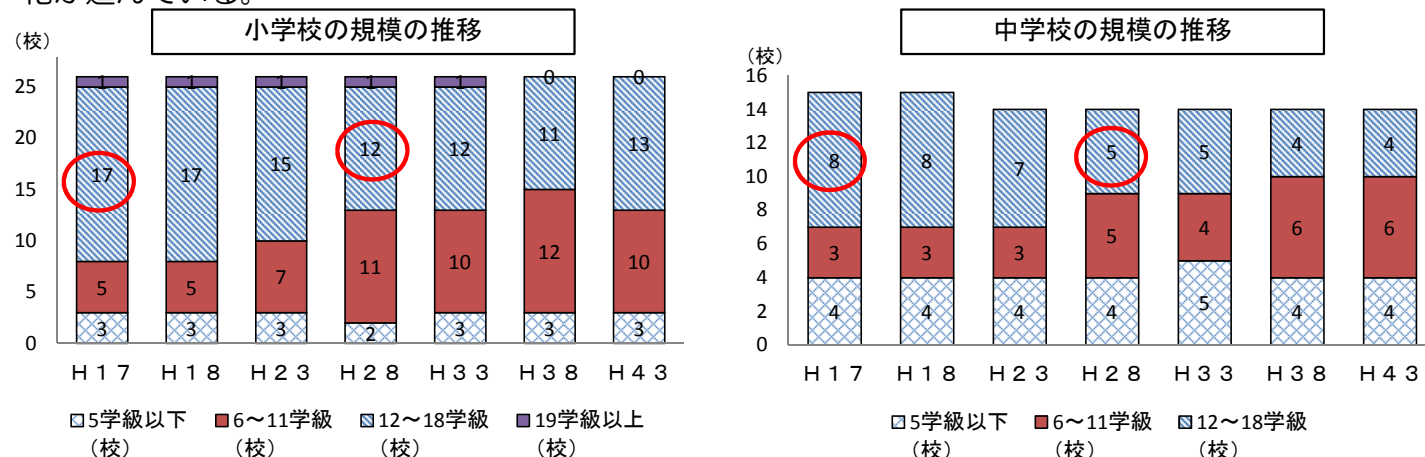
市内の児童生徒数は、下図のとおり、昭和58年度の23,414人をピークに減少の一途をたどり、平成28年度では12,198人とピーク時から約48%減少している。  
平成29年度以降においても、減少傾向は緩やかになりつつも続き、平成43年度には10,823人と推計している。



※各年度の5月1日現在の児童生徒数により作成し、平成29年度以降については推計値で作成した。

### 2 小中学校の規模の推移及び将来推計

学校の規模は、下図のとおり、通常学級の学級数が12～18学級である学校が、平成17年度と比較して平成28年度では小中学校ともに減少（小17校→12校、中8校→5校）している。  
平成29年度以降では、ほぼ横ばいで進捗する推計であるが、これまでの10年間で学校の小規模化が進んでいる。



※各年度の5月1日現在の通常学級数を「学校の規模（5学級以下、6～11学級、12～18学級、19学級以上）」で分類し作成した。平成29年度以降については推計値である。

### 3 小中学校の児童生徒数、通常学級・特別支援学級別学級数、学校の規模及び将来推計

小中学校の通常学級数は、平成17年度の484学級から平成28年度には394学級に減少し、平成29年度以降の推計においても減少傾向は続いている。一方、小中学校の特別支援学級数は、平成17年度の45学級から平成28年度には143学級となり増加している。  
通常学級1学級当たりの平均児童生徒数は減少傾向にあり、学校の規模とともに、小規模化が進んでいる。

		(H17)	H18	H23	H28	H33	H38	H43	
小中学校合計	児童生徒数(人)	15,213	14,863	13,340	12,198	11,871	11,415	10,823	
	通常学級数(学級)	484	483	432	394	386	369	360	
	特別支援学級数(学級)	45	49	108	143	128	122	114	
小学校	児童数(人)	9,975	9,744	8,613	8,038	7,925	7,496	7,283	
	通常学級数(学級)	328	326	289	270	268	253	250	
	特別支援学級数(学級)	30	34	77	98	89	83	78	
	学校の規模	5学級以下(校)	3	3	3	2	3	3	3
		6～11学級(校)	5	5	7	11	10	12	10
		12～18学級(校)	17	17	15	12	12	11	13
		19学級以上(校)	1	1	1	1	1	0	0
	通常学級1学級当たりの平均児童数(人)	30.0	29.4	28.3	27.7	27.5	27.6	27.1	
	中学校	生徒数(人)	5,238	5,119	4,727	4,160	3,946	3,919	3,540
		通常学級数(学級)	156	157	143	124	118	116	110
特別支援学級数(学級)		15	15	31	45	39	39	36	
学校の規模		5学級以下(校)	4	4	4	4	5	4	4
		6～11学級(校)	3	3	3	5	4	6	6
		12～18学級(校)	8	8	7	5	5	4	4
		19学級以上(校)	0	0	0	0	1	0	0
通常学級1学級当たりの平均生徒数(人)		33.1	32.1	32.0	31.7	31.6	31.9	30.3	

※通常学級数は、H16から小1が、H17から小2が、H18から中1が35人学級である。  
※「通常学級1学級当たりの平均児童生徒数」は、児童生徒数のうち通常学級に通う児童生徒の人数を、通常学級数で割り算出。

上段：数値(人、学級、校)  
下段：H28比較 増▲減

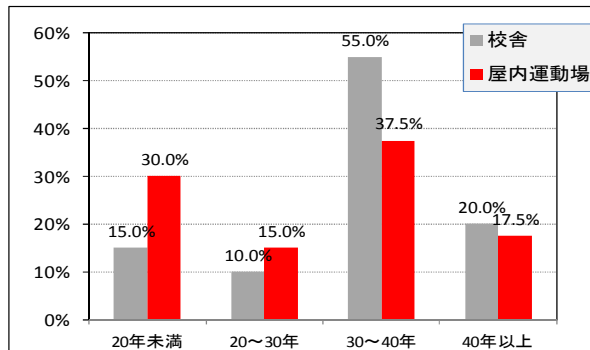
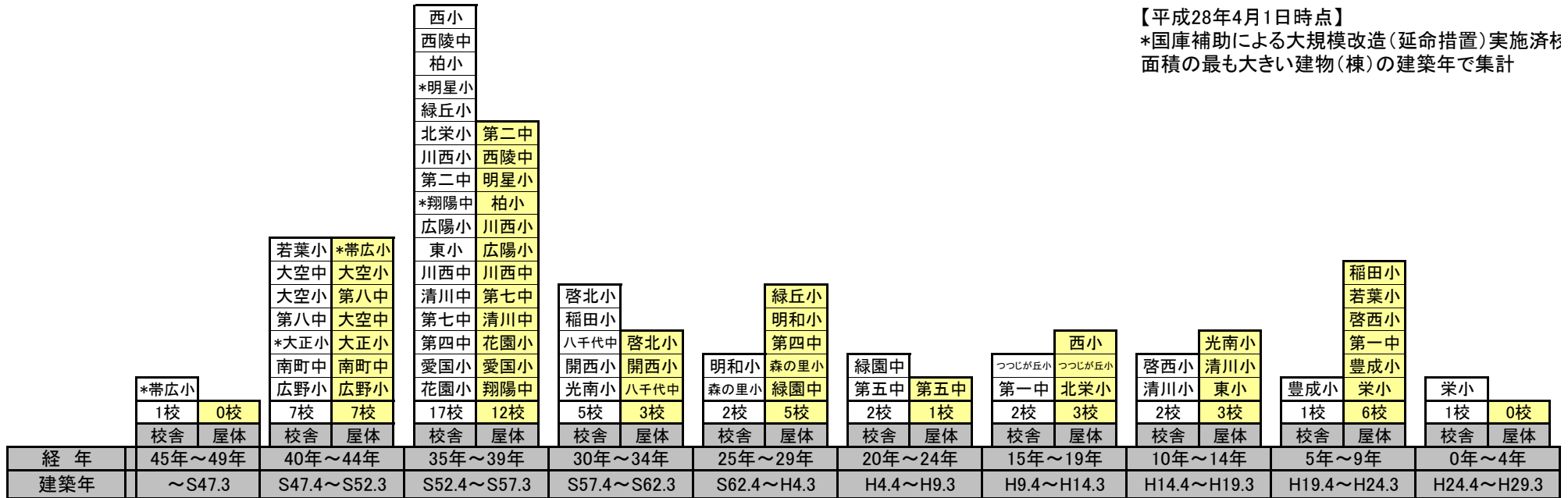
## 学校施設の状況

本市の学校施設は、昭和40年代後半から50年代にかけての児童生徒数の急増期に一齐に整備されているものが多く、学校施設の耐震化を進めてきた一方、老朽化対策は十分とはいえない状況にあります。

老朽化が深刻な築年数30年以上の小・中学校施設数は年々増加し、加えて機能面の低下も顕著となっており、これらの老朽化対策は、喫緊の課題となっています。継続的な修繕により施設の機能維持を図るとともに、大規模な改修を通じて教育環境の質的な改善及び施設の延命化を図るほか、老朽化が深刻な施設については、改築(建て替え)や長寿命化改修を視野に抜本的な改善に向けた検討が求められています。

【平成28年4月1日時点】

\*国庫補助による大規模改造(延命措置)実施済面積の最も大きい建物(棟)の建築年で集計



【現状】  
半数以上の施設が築30年以上の老朽施設  
【考え方】  
老朽化が著しい施設に対しては、改修等の対策を検討するとともに、継続的な修繕により施設の機能維持に努める。

# 平成28年度 学校一覧表

(平成28年5月1日現在)

学 校 名	敷地面積 (㎡)	校舎 建築面積 (㎡)	構造	建築年月	備考	児童生徒数	(人)		学 級 数 ( 標 準 法 )			教職員数(人) (加包含む)
							うち特別支援 児童生徒数	通常	特支	計		
帯広小学校	23,604	5,340	R造3階	S46.11	H9,H7大規模改造(補強、老朽)	193	29	7	5	12	25	
西小学校	15,129	4,258	R造3階	S52.12	H23地震補強	230	27	8	4	12	19	
柏小学校	27,555	6,032	R造3階	S53.10	H24地震補強	425	30	12	4	16	24.5	
明星小学校	25,912	4,903	R造3階	S53.11	H22地震補強,大規模改造(空調、トイレ)	482	34	14	5	19	28.5	
緑丘小学校	24,717	6,264	R造3階	S54.3	H24地震補強	515	39	15	6	21	31	
北栄小学校	19,428	5,374	R造3階	S54.3	H24地震補強	314	18	11	3	14	22	
光南小学校	22,230	5,483	R造3階	S61.6		340	30	12	5	17	24	
東小学校	27,945	3,445	R造3階 (一部2階)	S55.3	H24地震補強	192	12	7	3	10	17	
啓西小学校	41,403	6,115	R造3階	H14.6		408	15	12	3	15	24	
稲田小学校	22,375	5,971	R造3階	S58.6	H24地震補強	601	29	18	5	23	38.5	
豊成小学校	29,647	7,378	R造3階	H24.3		664	37	19	6	25	35.5	
大空小学校	27,774	6,577	R造3階	S49.2	H23地震補強,大規模改造(法令等)	336	24	12	4	16	24	
栄小学校	20,261	5,261	R造3階	H26.2		417	31	13	5	18	26	
若葉小学校	25,446	5,084	R造3階	S47.11	H24地震補強,大規模改造(トイレ)	429	21	14	4	18	28	
広陽小学校	25,698	6,024	R造2階	S54.10	H23地震補強	358	34	12	5	17	25	
花園小学校	20,811	5,270	R造3階	S57.3	H24地震補強	187	10	6	2	8	19	
啓北小学校	25,061	4,492	R造3階	S58.3		389	17	12	3	15	23	
開西小学校	27,487	6,054	R造3階	S60.7		266	16	11	4	15	22	
明和小学校	24,255	5,054	R造3階 (一部2階)	H2.6		388	43	12	7	19	29	
森の里小学校	28,135	6,284	R造3階	H3.6		272	21	9	3	12	19	
つつじが丘小学校	21,143	5,402	R造2階	H11.5		248	24	9	4	13	21	
川西小学校	25,119	1,862	R造2階	S54.3		138	3	6	2	8	12	
清川小学校	35,113	2,175	W造1階	H17.5		66	7	6	2	8	11	
広野小学校	19,297	1,160	R造2階	S50.3		39	4	3	2	5	8	
大正小学校	30,609	2,532	R造2階	S49.5	H20地震補強,大規模改造(校内LAN)	107	8	6	2	8	12	
愛国小学校	21,155	1,256	R造2階	S56.12		34	0	4	0	4	7	
小学校計	657,309	125,050	-	-		8,038	563	270	98	368	575	

# 平成28年度 学校一覧表

(平成28年5月1日現在)

学 校 名	敷地面積 (㎡)	校舎 建築面積 (㎡)	構造	建築年月	備考	児童生徒数	(人)		学 級 数 ( 標 準 法 )			教職員数(人) (加包含む)
							うち特別支援 児童生徒数	通常	特支	計		
第一中学校	27,115	6,120	R造3階	H11. 5	H13大規模改造(校内LAN)	493	27	14	5	19	33	
第二中学校	31,711	5,000	R造3階	S54. 3		312	13	9	2	11	22	
第四中学校	35,482	5,959	R造3階	S56. 7	H23地震補強	313	29	9	5	14	25	
第五中学校	26,709	6,064	R造3階	H 5. 3		338	23	10	4	14	27	
第七中学校	22,376	2,546	R造3階 (一部2階)	S56. 2	H23地震補強	72	3	3	2	5	13	
第八中学校	26,771	4,836	R造3階	S49. 3	H23地震補強, 大規模改造(法令等), H25大規模改造(トイレ)	435	36	12	5	17	32.5	
大空中学校	28,046	4,384	R造3階	S49. 1	H23地震補強	185	6	6	2	8	18	
南町中学校	32,156	5,292	R造3階	S50. 2	H23地震補強, 大規模改造(法令等)	642	17	17	3	20	40	
西陵中学校	25,932	5,936	R造4階 (一部3階)	S53. 5	H23地震補強	442	8	12	2	14	28	
緑園中学校	30,346	6,426	R造3階	H 4. 6		313	27	9	5	14	26	
翔陽中学校	23,942	6,903	R造4階 (一部3階)	S54. 3	H21地震補強, 大規模改造(老朽、空調、トイレ)、H22校内LAN新設	504	35	14	5	19	31	
川西中学校	39,823	1,767	R造2階	S55. 12		70	4	3	2	5	13	
清川中学校	32,268	1,678	R造2階	S55. 12		25	4	3	2	5	13	
八千代中学校	29,472	1,678	R造2階	S60. 5		16	1	3	1	4	11	
中学校計	412,149	64,589	-	-		4,160	233	124	45	169	332.5	